

平成 15 年 10 月 1 日

皆さんは漢方薬についてどんなイメージをお持ちでしょうか？「副作用がなく安全」、「よく効く」、「あまり効かない」など人それぞれでしょう。今回はそんな漢方薬について少しお話ししたいと思います。

漢方薬での治療について

漢方医学では人間が本来もっている自然治癒力(病気と闘い、治す力)を高めたり、生体機能のバランスを整えることに主眼をおいて治療をおこないます。

西洋医学では患者さんの症状と所見から病気を診断し、その疾患に有効な薬を使用し治療を行います。一方、漢方医学では患者さんの症状、体質などから『どの漢方薬がその患者さん適切であるか』という『証』を診断し、薬を処方する随証療法を行います。この『証』という考え方は漢方医学独特の診断法で、『証』が正確に見極められていないと、漢方薬の効果が十分に発揮されなかったり、副作用が起こることもあります。

葛根湯って？

有名な漢方薬のひとつに葛根湯があります。薬局でもよく見かけますし、皆さんにもなじみがあるものだと思います。その葛根湯を簡単に紹介してみたいと思います。

葛根湯は一般的には風邪に用いられます。しかし、葛根湯にも適応する『証』があります。葛根湯に含まれる生薬からもその一部を読み取ることができます。

葛根湯には次の6つの生薬が含まれています。

葛根湯： 葛根 麻黄 桂枝 芍薬 甘草 生姜 大棗
桂枝湯

この処方桂枝湯という漢方薬に葛根と麻黄を加えたものです。体を温める作用がある桂枝に強い発汗作用のある麻黄が加わることで、より強い発汗作用があらわれます。その為、葛根湯は汗のでていない風邪の初期の急性熱性症状(悪寒、悪風、発熱、頭痛など)に有効です。反対に自然発汗のみられる人に用いるのは過度の発汗をまねくおそれがあるので、好ましいことではないと言えます。また葛根には肩や首筋のこりを治す作用があり、首の後ろのこりをともなう風邪にも有効です。

漢方薬の服用方法、保存法について

最近の漢方薬は伝統的な剤型(煎じたものや、生薬を粉末にしたものなど)に代わり、エキス製剤が主流になってきています。エキス製剤とは、調合した漢方薬の抽出液を細粒や顆粒に加工した製剤です。ここでは、そのエキス製剤の服用方法、保存法についてお話ししたいと思います。

服用方法

白湯に溶かして服用するのが最も効果的だといわれています。これは、煎剤(生薬を水で煎じたもの)に近い状態で服用することで、有効成分の吸収促進や漢方薬特有のにおいや味による効果などが得られるからです。溶けにくい場合は数分置くことでなじんできます。においや味が気になる人は通常の服用方法でもかまいませんが、少量の白湯や水で服用すると胃内での粘性が高くなって、胃腸虚弱の人には負担になってしまうので、十分な量の水分とともに服用するようにしてください。

保存法

エキス製剤は湿度の影響を受けやすいので、アルミシートからは出さないで缶などに入れて常温で保存してください。冷蔵庫に入れると結露で吸湿しやすいので避けたほうがよいでしょう。

最後に

漢方薬は適正に使用されれば、比較的副作用も少なく安全に使えるお薬です。しかし、安易に間違った使い方をすれば副作用の発現などの危険性もあります。また、近年の健康ブームで漢方薬と称したものがマスコミでも取り上げられていますが、誇張や歪曲された情報におどらされることのないように注意しましょう。